

どのような目的で、また、どのような方法で花いっぱい運動に取り組んでいるか

「足元から環境問題を考えよう！」をテーマに活動している足立グリーンプロジェクトの園芸部は、「六町・エコプチテラス」の花壇の維持管理を目的に、花壇作りを行っている。花いっぱい運動においても、廃材リサイクルによる花壇作りや雑草を堆肥にするなど「環境に配慮した花壇作り」を課題としている。さらに園芸部は、花を見ることで地域の人が笑顔になってほしいと、ふたつの独自テーマを掲げて、花いっぱい運動に取り組んでいる。

癒しの空間作り

「花がきれいですね」から始まる会話と地域の交流

道行く人が思わず立ち止まり、施設内に足を踏み入れたくなるような、「鮮やかさ」と「やさしさ」を兼ね備えた花壇をつくるために、花の色や見せ方を工夫している。

花の維持・管理を支えるのは、身近なエコ活動を実践するボランティア＝エコボランティアである。近隣の住民で構成された約170名のエコボランティアが、花柄摘みや除草・清掃など、地域の美化活動に努めると同時に、「自分たちでつくる癒しの場」として、水遣り、花柄摘み、除草など自主的な管理を行っている。



夏のテーマは「原色の輝き」。マリーゴールドやひまわりを中心に構成。



春のテーマは「懐かしい風景」。キウイ棚下は一面の菜の花畑が広がる。



チューリップは足立区の花。春には色とりどりの花が咲き乱れる。



花壇の横にあるハーブ園では、ミントやカモミールなど20種ほどのハーブがある。

管理上の問題があるか。どのように解決しているか

2100㎡（約700坪）の施設面積のうち、正面エコ広場花壇（約100㎡）と道路に接した周辺部に季節の花々を育てている。管理上の問題は、主に3つある。

1、広域な花の水遣り

雨水や風呂の残り湯の活用など、水資源への配慮を心がけているが、広い花壇の管理において一番の問題は水遣りである。これまでジョウロで水遣りをしてきたが、作業量が多いため太陽光パネルでモーターを稼働させる自動散水機を設置。太陽光エネルギーの活用と作業の効率化の両方を実現した。

2、定期的な除草・清掃

施設内だけでなく、周辺の道路まで定期的な除草・清掃作業を行っている。道路の設置面に花を植えることでゴミの不法投棄防止につとめている。

3、景観の維持のための計画的な花壇作り

季節ごとの花のデザインや維持管理のために、定期的なミーティングを行っている。技術部・清掃部などと連携しながら、よりよい花壇作りにむけて計画・調整を行うなどの連携・協力をしている。



太陽光パネルでモーターを動かした「自動散水機」を使って花への水遣りを行っている。



雨水などを活用。風呂の残り湯を運んでもらうなど、水資源の有効活用を奨励している。



花の管理だけでなく、施設周辺の清掃も行っている。



園芸部のミーティング。活動における方向性や課題について定期的に話し合っている。

グループ外との交流はどうなっているか

六町・エコプチテラスでは、地域のコミュニケーションの活性化や環境問題を考えるきっかけ作りを目的として、季節ごとに様々な催し物を行っている。

菜の花が咲き乱れる今年の4月には「菜の花祭り」を開催し、地域の人を招いて花を愛でる機会を設けた。また5月23日には緑のネットワーク作りを行っているNPO・グリーンパルと共催してのイベント『グリーンパルピクニック・野菜と笑顔があふれる空き地』を開催し、環境への意識啓発と同時に、グループ外の参加者に活動を知ってもらうための機会を提供した。園芸部は、花壇の花を使ったしおりやハーブ園でつくったポプリのチャリティ販売を行ったり、ハーブティを振舞うなど、参加者に現地の体験をしてもらった。

また、近隣で花いっぱい運動に取り組んでいるグループとの交流も積極的に行っている。足立区神明にある「神明美化グループ」との情報交換や、足立第十三中学校が運営する「ふれあい農園」との交流など、花いっぱい運動をしているグループと交流を深めることで、より広がりのある活動を目指している。



ハーブ園のハーブを利用したポプリ作り。



4月にはご近所の方を招いての菜の花祭り。



5月に行われたイベント「グリーンパル・ピクニック」では、緑地空間の効果と地域交流の事例を紹介。



ハーブ園で摘み取った葉に熱湯を注ぎ、その場でハーブティに。

花いっぱい運動でどのような成果を上げているか

「癒しの空間作り」「地域の交流」をテーマに掲げる園芸部では、施設への来園者数がひとつの成果指標と考えている。平成16年7月の来園者数は930名で、1日平均30名の方が施設を訪れていることになる。季節の花を見に来る「ファン」も少しずつ増え、花の育て方のコツなどを尋ねる人に、園芸部が丁寧に説明している。

また、花壇整備以前は空き缶・ペットボトルのポイ捨てや、タイヤなどの不法投棄が絶えなかったが、平成14年9月に花壇整備をして以来、ゴミの不法投棄は激減し、ゴミ拾いをする機会はほとんどない。きれいな花壇を目にして、ゴミを捨てる意識をなくさせることに成功している。

いずれも長年放置されていた空き地を再生し、地域の方々に癒しの空間を提供すると同時に、花をきっかけとした地域の交流作りに大きな影響を与えていると考える。

	
<p>園芸部の真心込めた花の手入れが、道行く人に癒しと安らぎを与えている。</p>	<p>夏休みの宿題でNPO訪問をする中学生。ドアの廃材で作った看板を説明。</p>
	
<p>夏休みの宿題で花の絵を描きに来た中学生。</p>	<p>花壇の世話をしていると、声をかけてくれる人が多く、園芸部の励みになっている。</p>

その他グループの特徴や参考となる事項

足立グリーンプロジェクトは「足元から地球環境を考えよう！」をテーマに、生活者の視点から考え、取り組める身近なエコ活動の啓発をテーマに活動をしている。

活動の拠点となっている東京都足立区六町は、常磐新線『つくばエクスプレス』の開通に伴い、区画整理事業が進行している。町のあちらこちらにある区画整理事業用地は背丈ほどの雑草が生い茂り、空き缶・ペットボトル・自転車・タイヤなどの不法投棄物が数多く捨てられ、地域の景観を損なうだけでなく、治安を悪化させていた。

そこで、土地利用が決まるまでの期間を暫定的に活用し、ヒートアイランド・生ゴミリサイクル・地球温暖化問題についての具体的な対策の拠点として、足立区と協働で「六町・エコプチテラス」を設置することとなった。

施設では、ヒートアイランド対策として26本のキウイフルーツを植樹し、葉の蒸散作用により1～3度の気温低下が実現している。また、家庭から出る生ゴミを土に埋めて削減（年間約3トン）すると同時に、堆肥として花や野菜を育てている。

地域住民に憩いの場として親しまれると同時に、持続可能なまちづくりの実現に向けた具体的な対策として、メディア等からも注目されている。



長年放置された空き地には雑草が生い茂り空き缶などのゴミが投げ込まれていた。



正面を花で飾ってきれいにすることで、ゴミを投げこむ気が起こらないようにする。



廃材を活用した花壇作りは技術部の役割。



不要になったU字構を3つ組み合わせて作った手づくりプランター。



エコボランティアが、こまめな花柄摘みをして花を管理。



雑草や花柄などは、堆肥にしてリサイクル。資源循環のなかでの花壇作りを徹底。



入り口にある看板もボランティアによる手作り。活動の目的を手書きの絵と共に表示。



花を求めてやってくる蝶や昆虫たち。植物や昆虫の写真はホームページで公開。



正面花壇の全景。



活動の様子はホームページで随時公開している。www.greenproject.net